

# 経済金融動向 (2017年10月)

みずほ総合研究所 経済調査部

## 日本経済は純輸出を中心に回復

2017年7～9月期の実質GDP成長率（1次速報）は前期比+0.3%（年率+1.4%）と約17年ぶりとなる7四半期連続のプラス成長になった。4～6月期の増加の反動から内需が減少したものの、IT関連輸出等の増加を受けて純輸出が成長率を押し上げた。先行きは、海外経済の回復を背景に輸出の増勢が続くとともに、内需も再び増加基調に復することで、緩やかな回復基調を維持するだろう。

10月の輸出数量指数（みずほ総合研究所による季調値）は、前月比▲0.1%とほぼ横ばいとなった。EU向けが持ち直し、中国向けのプラスも続いたが、米国向けが弱含んだ。今後は、世界経済が回復するなかで、輸出数量も緩やかな増加基調で推移するだろう。

9月の鉱工業生産指数は、電子部品・デバイス工業や、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業などが低下し、前月比▲1.0%と2カ月ぶりに低下した。ただし7～9月期でみれば前期比+0.4%と6四半期連続でプラスとなった。在庫調整圧力も小さいことから当面は増産基調が続くだろう。

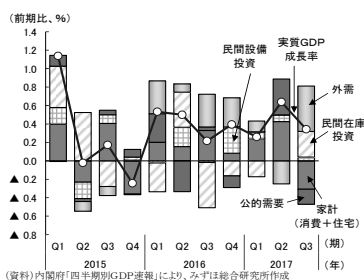
## 雇用情勢は改善傾向

雇用情勢は改善が続いている。9月の完全失業率は2.8%、有効求人倍率は1.52倍と前月から横ばいとなった。雇用の先行指標である新規求人数は前月比▲0.9%と2カ月ぶりに減少したが、7～9月期でみれば前期比+1.9%と大幅に増加しており、今後も労働需給のひっ迫が続く見通しだ。9月の名目賃金は所定内給与の伸びが加速し、前年比+0.9%（8月同+0.7%）となった。今後も労働需給のひっ迫を背景に名目賃金は緩やかな回復基調が続くだろう。

## 個人消費は回復一服

9月の消費活動指数（旅行収支調整済）は、耐久財とサービスが弱含み、前月比▲0.3%と2カ月連続で低下した。7～9月期でみても前期比▲0.5%と低下しており、消費の回復には一服感が出ている。ただし、先行きについては、株高や所得回復などを背景に消費者マインドが改善していることが支えとなり、個人消費は回復基調に復するだろう。

実質GDP成長率



鉱工業生産・輸出数量指数



	鉱工業生産	第3次産業	機械受注	失業率	消費活動指数	小売販売額	住宅着工戸数	貿易統計輸出額	貿易統計輸入額	企業物価(国内)	消費者物価(全国)
	前期比%	前期比%	前期比%	%	前期比%	前期比%	万戸	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%
2015年度	▲0.9	1.4	4.1	3.3	0.1	0.8	92.1	▲0.7	▲10.2	▲3.3	0.0
2016年度	1.1	0.4	0.5	3.0	0.4	▲0.2	97.4	▲3.5	▲10.2	▲2.3	▲0.2
2016/10	0.3	0.1	3.4	3.0	0.4	2.4	98.1	▲10.3	▲16.3	▲2.6	▲0.4
11	1.0	0.2	▲2.8	3.1	▲0.1	▲0.7	95.4	▲0.4	▲8.7	▲2.3	▲0.4
12	0.7	▲0.1	2.1	3.1	▲0.4	▲0.7	92.3	5.4	▲2.5	▲1.2	▲0.2
2017/01	▲2.1	▲0.1	▲3.2	3.0	0.8	0.2	100.1	1.3	8.4	0.5	0.1
02	3.2	▲0.1	1.5	2.8	0.5	0.3	94.0	11.3	1.3	1.1	0.2
03	▲1.9	▲0.3	1.4	2.8	▲0.4	0.2	98.4	12.0	15.9	1.4	0.2
04	4.0	1.4	▲3.1	2.8	1.5	1.4	100.4	7.5	15.2	2.1	0.3
05	▲3.6	0.0	▲3.6	3.1	▲0.8	▲1.5	99.8	14.9	17.9	2.1	0.4
06	2.2	▲0.2	▲1.9	2.8	▲0.3	0.2	100.3	9.7	15.5	2.2	0.4
07	▲0.8	0.1	8.0	2.8	0.7	1.1	97.4	13.4	16.3	2.6	0.5
08	2.0	▲0.1	3.4	2.8	▲1.0	▲1.6	94.2	18.1	15.3	2.9	0.7
09	▲1.0	▲0.2	▲8.1	2.8	▲0.3	0.8	95.2	14.1	12.1	3.1	0.7

注: 1. 機械受注は船舶・電力除く民需。  
2. 消費活動は実質ベース、旅行収支調整済。  
3. 住宅着工は年率換算の季節調整値。  
4. 消費者物価は生鮮食品除く総合。